



東京木材問屋協同組合

〒136-0082 東京都江東区新木場 1-18-8
TEL.03-5534-3111(代表) FAX.03-5534-7711
<http://www.mokuzai-tonya.jp/>
E-mail:info@mokuzai-tonya.jp
平成21年7月17日 初版発行
平成26年7月20日 改訂版発行



木 材 会 館

東京木材問屋協同組合





『木材会館』竣工にあたって

木材需要拡大のホームグラウンド・『木材会館』が竣工しました。

東京木材問屋協同組合の新たな 100 年へ向けての挑戦のスタートです。

この会館の建設には檜を中心に 1,000 m³以上の国産木材が、内装・外装そして構造に使用されています。何処の材木屋でも手に入る普通の木材を使い、伝統的な工法に最新の技術を組み合わせています。設計の(株)日建設計・施工の大成建設(株)がその知識と技術を駆使し、材木屋の経験と知恵を加味して完成しました。永く都市部の建築物から遠ざけられてきた木材を使用するにあたって、様々な工夫と実験を積み重ねた結晶でもあります。「木材の強さ、美しさ、優しさを率直に具現した『木材会館』に、多くの人々が集い、快適に働く」この事が、新たな木材の需要拡大を強力に推進してくれると確信いたします。

『木材会館』のもう一つの大きな役割は、地球環境への貢献です。木材は大気中の二酸化炭素を吸収して生育し、固定します。1,000 m³の木材は、『木材会館』が存続する期間にわたってその炭素を固定し続けてくれます。「森を育てたい・だから木を使おう」この強い思いを持って建設にあたりました。

『木材会館』の建設にご尽力頂いた全ての皆様と、この挑戦を支えて下さった組合員の皆様に感謝申し上げ、木材需要拡大に向けた強い決意を新たに致しております。



東京木材問屋協同組合
理事長 吉条 良明

建物名称：木 材 会 館

所在地（住居表示）：東京都江東区新木場一丁目 18

前面道路：北側 30.00m(区道)

用途地域・地域地区：準工業地域 / 防火地域 / 新木場・辰巳三丁目地区 地区計画区域

敷地面積：1,652.90m² (500.00 坪)

建築面積：1,011.26m² (305.91 坪)

延べ面積：7,582.09m² (2,293.58 坪)

貸室面積：2,549.09m² (771.06 坪)

建蔽率：61.20% ≦ 70.00%

容積率：399.60% ≦ 399.60% （※総合設計による容積制限の緩和を受けています。）

用 途：事務所・集会場

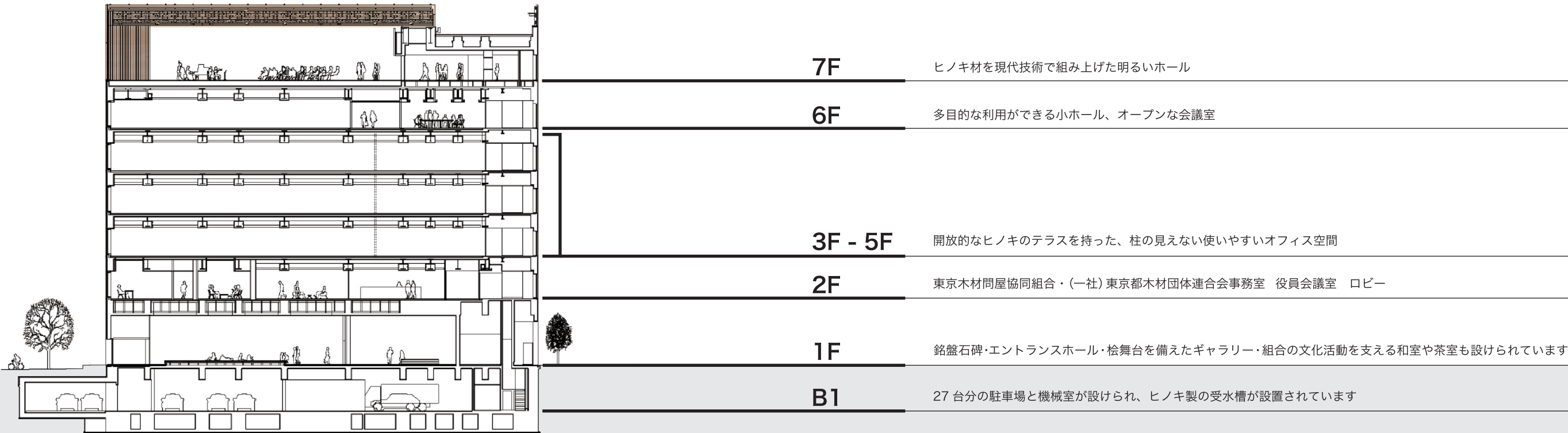
階数・高さ：地上 7 階 地下 1 階 最高高さ：35.73m

構 造：鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、一部木造

外部仕上：(外壁) コンクリート打放し FUC 塗装、木壁 (軒天) 木天井 (外構) 花崗岩、PC 平板

駐車場：駐車台数 27 台（平面駐車場 15 台・機械式駐車場 9 台・身障者用駐車場 1 台・荷捌き駐車場 2 台）

竣工日：平成 21 年 7 月 5 日



プロジェクトの目的

東京木材問屋協同組合 100 周年記念事業の最大の目玉は、木材流通の中心地である新木場に『木材会館』を建設するプロジェクトです。木材需要の低迷する現在、都市部の建築において、いかに木材を使って安らぎを感じる魅力的な空間を作るか、地球環境に貢献できる建物ができるかを探求したプロジェクトです。

「木材を使用する」という建物のメインテーマから、加工技術・流通・安全性・防火・構造・エコロジー等の様々な観点で木材の使い方を考え直しました。『木材会館』全体が現代の建築に木材を使用する為のノウハウの核となり、これからの建物に木材をより自由に使ってもらえるきっかけになるようにとの思いで計画しました。

さらに、木とともに生きてきた日本の風土について考え直し、現代における新しい木と建物の係わりを提案しています。

『木材会館』に使用された木材

檜：7 階 ホール木梁・壁柱・壁パネル、各階テラス天井・木壁・床、外装パネル、
6 階 カウンター

1 階 ギャラリー木壁・舞台床、その他（合計 1,025m³）

杉：各階 事務室木ダクト、各階ルーバー天井、
1 階 和室茶室造作材、コンクリート型枠用本実板、
6 階 スクリーン（ステージ背面）
7 階 ホワイエオブジェ

タモ：各所 自動扉・木製建具、カウンター、階段 EV 手摺（集成材）

ナラ：各階 廊下 EV ホールフローリング

カシ：7 階 ホール木梁柱

ブナ：7 階 ホールフローリング

かえで：6 階 小ホールフローリング、各所鋼製建具取手

くるみ：2 階 会議室木壁

さくら：2 階 役員会議室木壁（山さくら）、机（マカバ）

『木材会館』へようこそ

新木場駅を下りて駅前広場を見渡すと、さくらの木々の向こうに『木材会館』が顔を覗かせています。広場の西側を通過して交差点に出ると、『木材会館』がその全貌を表します。檜の角材でコンクリートと鉄の構造躯体を覆い、安らぎとぬくもりの外観を形成しています。

建物の外部に木材を使用する工夫

「木材は燃える」という既成概念から、永く建物の外部に木材を使用することは避けられてきました。しかし、ここで重要なのは、材料が可燃かどうかではなく、火災の際に建物が安全かどうかということです。『木材会館』では、耐火性能の高い鉄骨鉄筋コンクリート造で構造躯体を形成することにより、万一火災が発生し、外壁が炎にさらされても安全な構造にしています。又、外壁が炎上した場合でも上階へと燃え広がることがないように、階の途中に不燃処理を施した燃えない木材をファイアーストップ材として設置することで、火災の拡大を防ぐ構造になっています。こうした工夫を施し、防災の専門家に耐火に対する評価を検証いただいて、外壁に木材を使用しても安全な建物を実現しました。



檜の角材と鉄、杉の木目を映したコンクリートが奏でるコントラスト



檜の角材でコンクリートと鉄の構造躯体を覆い、安らぎとぬくもりの外観を形成しています。



入口に設置された銘盤は、昭和50年に竣工した深川の旧木材会館の石碑を移設しました。当時の総理大臣、三木武夫氏の揮毫によるものです。



タモ材を使った玄関扉

1 F エントランスホール



1F エントランスホール

ゆとりのある空間

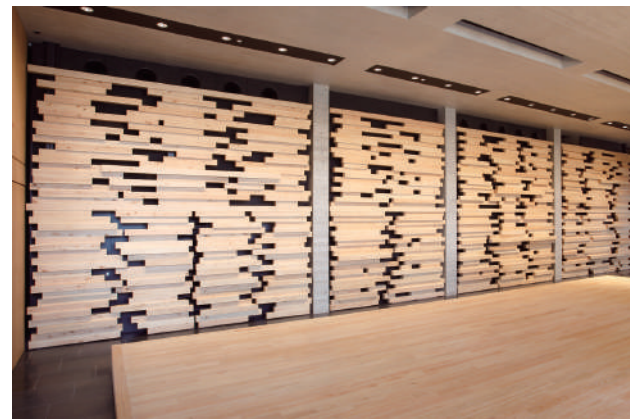
重厚なタモの玄関ドアをぬけるとエントランスホール、檜のオブジェが目に飛び込んできます。そこに腰を下ろすと、杉の木の風合いを映し出したコンクリートの高い壁面と天井がくつろぎの雰囲気醸し出してくれます。隣は、檜舞台を持つ多目的ギャラリーです。



1 F 檜舞台・ギャラリー



檜舞台から西側に目を向けると檜で組んだ壁と天井が作り出す爽やかなテラスの向こうに、広場を行き交う人達の姿が目に見えます。



東側の壁は、檜の角材をランダムに組み合わせたユニークな壁面です。

7F 檜のホール

木の強さ・やさしさ・美しさを堪能して下さい

7階に降り立つと、黒を基調としたシックなホワイエに杉のオブジェとタモの扉がやさしく迎えてくれます。さあ、扉をお開き下さい。



7F ホール入口

かぐわしい檜の香りと明るい光に満ちあふれたホールです。圧倒的な存在感ある大梁が作り出す、爽やかな空間をお楽しみ下さい。

檜を組み上げた大梁

古来、日本の建物においては、木材は構造体であると同時に化粧材でもありました。

檜のホールの屋根を支える大梁は、檜の12cm角で組まれています。コンピューター制御のNC加工で、伝統の「追掛大栓継手」を施し、カシの木栓をはめ込んで繋がれ組み上げられました。木と木を組み合わせ、木と木のめりこみにより、木と木が互いに力を合わせて強度を発揮しています。補助的にボルトで締めあげることで一体化された巨大な形状の大梁は、様々な実大強度実験をクリアし、安全性を実証することができました。木梁と木梁の間に設けられた天窓から光が降り注ぎ、ホールと木梁を柔らかく照らしてくれます。



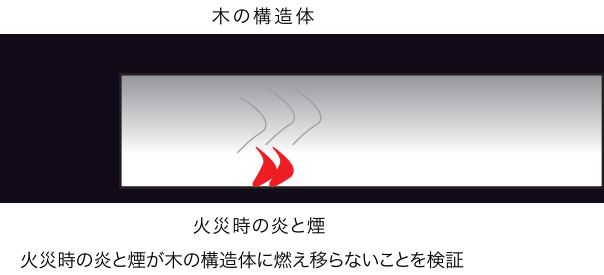
檜のテラスでおくつろぎ下さい

檜のホール西側のガラス戸を開けると、つかの間のくつろぎを楽しめる広々としたテラスに出ます。
空気の澄んだ日には、都心の高層ビルの向こうに、遠く富士山を望むことも出来ます。



建物の構造に木を使う工夫

可燃物である木材を構造体として使用することは、法規上そのままでは不可能です。檜のホールでは、実際に火災が発生した際、火がホールの天井に届かないか、火の熱や煙で木梁に火がつかないか、といったあらゆるケースを計算して検証し、防災の専門家に評価をいただくことで、安全な木の構造体を実現しています。



6 F 会議室



6F 会議室

内装に木材を使用する工夫

ある規模以上の建物では、一般的に内装制限があり、不燃材を使用することが定められています。これに対して、2000 年に改定された建築基準法によって、火災時に人間が避難できる安全性が確保されれば、この制限を緩和できる道が開かれました。（避難安全検証法）
『木材会館』では、この制度を利用して、天井の高さを通常より高く確保し、火災が発生しても煙が上空にたまって、その間に人々が十分余裕を持って避難できるように設計しました。定められた計算方法によって安全性を検証し、確認検査を受けることで、建物全体で内装に無垢の木を自由に使うことが可能となり、居住性に優れた空間が実現しました。



杉板を貼った可動式間仕切りで、3室に仕切ることができる明るい会議室です。



6 F 小ホール



会議室の前の部屋は、懇親会も開ける多目的な小ホールです。入口を入ると、木の持つ新しい表情をデザインしたカウンターが目にとまります。ホールの奥には、杉の木立をイメージしたオブジェが、その前に置かれた檜の演台と共に柔らかな雰囲気醸し出しています。



カウンターは、檜の角材を波状に削り積み重ねて製作しました。板目の部分を削ると賑やかな玉杓が現れ、柃目の部分を削ると落ち着いた中にもダイナミックな躍動感を感じさせてくれます。



華やかな雰囲気の懇親会場



小ホールと会議室の間の空間に、『世界の木製クラフト・コレクション』を展示する為のショーケースを設置しました。檜の角材を積み重ねて製作したものです。

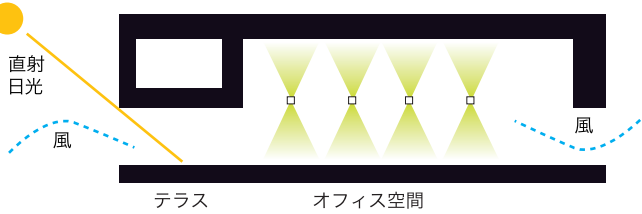
3F - 5F 光と風と木のテラスを持つオフィス（5F）



5F オフィスフロア

木を使った仕事の空間

建物のオフィス階においては、西側全体にあるテラスやエレベーターホールを、大きな縁側のような空間としています。天井を檜で、床をナラ材で構成し、オフィスとの間をガラス張りとして、開放的で木の中で働いているようなオフィス空間としています。窓を閉め切った無機質な空間ではなく、気軽に窓を開けて、明るく風通しの良いテラスに出ることができます。柱の見えない、広々とした、使い勝手の良いオフィス空間です。



5F エレベーターホール

2F 東京木材問屋協同組合・（一社）東京都木材団体連合会事務室



組合活動を支え、組合員交流の場を提供するスペース



開放感あふれるテラスが臨めます

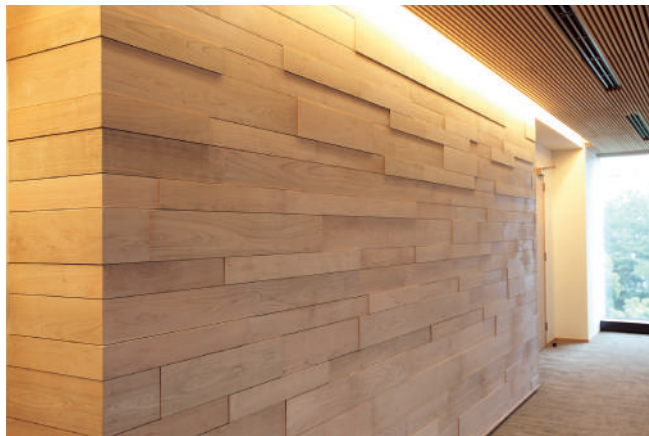


中央には、広々としたロビーが設けられています

2 F 役員会議室・理事長室



桜（真樺）の無垢材で組み立てられた美しいテーブルが、壁面の山桜の凹凸のある羽目板とマッチして映える会議室です。

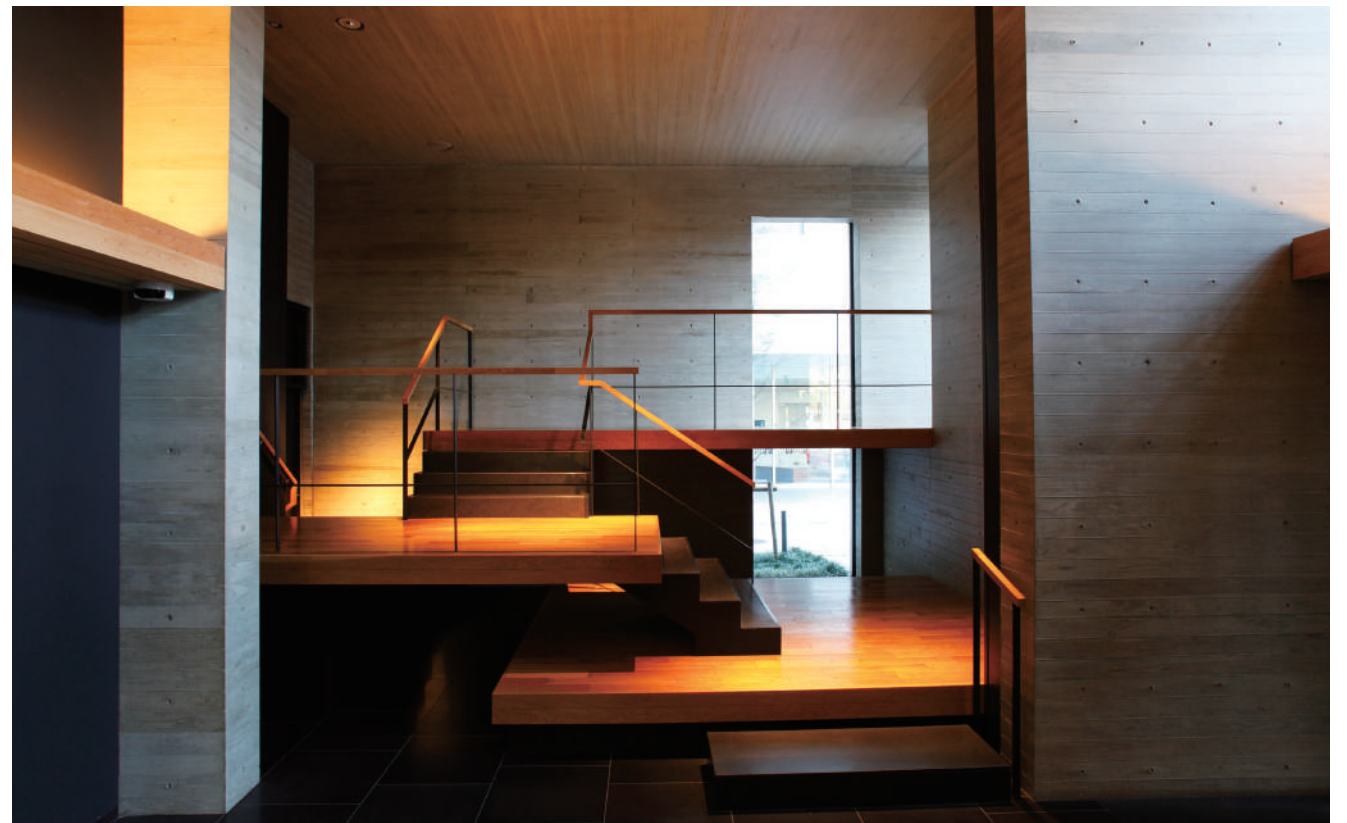


理事長室

2 F テラス・1Fエレベーターホール



光と風の木のテラス
ベンチの設けられたオープンなテラスは、
人々が交流し、リラックスできる空間になっています



エントランスホールに続くエレベーターホールには、ちょっとオシャレな階段室と、木の床と手摺を持ったガラス張りのエレベーター3基。目的の階へスムーズに移動できます。

1 F 和室・茶室



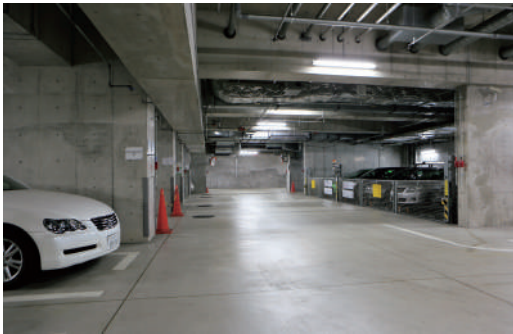
くつろぎの和室。
お茶、生け花、詩吟教室など、組合の文化活動の拠点でもあります。



水屋を備えた本格的な茶室。
お茶、生け花、詩吟教室など、組合の文化活動の拠点でもあります。



地 下 駐 車 場 ・ 受 水 槽



契約車及び会館関係専用車の駐車場です。



駐車場の奥の機械室内には檜製の受水槽が設置されています。



朝日に映え、夕日に染まる、そして風雨を優しく包み込む木材の館、中に入ると天井板の長い直線が希望を与えるかのようだ。コツコツとフローリングが靴の下でささやく。自然との共生を実感しているこの建物は日々変わった趣を醸し出してくれる。都市建築に木材を如何に多く使えるかに挑戦した建物としてこの木材会館は誕生し、多くの建設関係者の見学も受け入れている。日本人に脈々と息づいている「木の文化」、木材の持つ美しさ、優しさ、強さを生かした建築が都市にも多く建設されるよう願って止まない。
(竣工 5 周年に記す)

平成 26 年 7 月 5 日 吉条良明